

令和3年度 第2回松本市基幹博物館1階活用市民会議 議事録【公開用】

1 日時 令和3年8月3日(火) 午後3時～午後5時

2 場所 松本市立博物館講堂

3 出席者

委員 益山委員長 山村職務代理者 赤沼委員 大槻委員 金井委員 (web参加)
川船委員 長谷川委員 渡邊委員

事務局 (教育委員会) 藤森教育部長 木下博物館長 中原建設担当課長
山村庶務担当補佐 三木建設担当補佐 小原事業担当係長
一ノ瀬主任 千賀主任 弘中主事

(文化観光部) 小原文化観光部長 小口観光プロモーション課長

傍聴者 報道関係者

4 会議の概要

開会

委員長あいさつ

皆さんこんにちは。お暑い中、そして、お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。今回第2回目になりますけれども、前回同様、皆様のご活発なご意見をいただければと思います。では、よろしく申し上げます。

議事

ア にぎわい創出に係る他館事例について (事務局による資料1の説明)

イ 1階の活用について

(ア) 文化観光面での活用案について (事務局による前回資料3の説明と振り返り)

(イ) パブリックコメントについて (事務局による資料2の説明)

ウ 意見交換

委員長 他館事例、文化観光部からの説明、パブリックコメントの抜粋を説明いただきました。これらにつきまして皆様方のご意見ご質問等をお願いしたいと思います。では、委員の皆様、挙手にてご意見をお願いしたいと思います。E委員お願いします。

E委員 過日、新聞の方で「基幹博物館に関するサウンディングを募集します。」という記事が出ていました。広く意見を吸い上げたいということだと思いましたが、サウンディング調査をする意図というか、どういう位置付けなのか、この会議との違いは何かというところを明確にさせていただいた方が進めやすいのかと思いますので教えていただけますか。

委員長 はい。中原課長お願いします。

中原課長 この後の議題でご説明させていただこうと思っておりました。指定管理者制度等の新しい博物館の管理運営についてご説明させていただくわけですが、そういう中で、指定管理者制度の導入も含めた、いわゆる官民連携ということについて市場性が本当

にあるのかどうか。博物館という非常に特殊性の高い施設でございますので、受け手が本当にあるのかどうかも含めて、調査をしていきたいと考えているところですので、事業をどうしていくのかっていうこととは、ちょっと考え方が違うのかなというふうに考えております。

委員長 はい。E 委員。

E 委員 すいません。サウンディングについて新聞で拝見しただけなので、どこまでの範囲なのかはわからなかったのですが、とらえ方によると、1 階の運営活用も含めた中で広く集約したいというふうに取りれたのですが、だとすれば、そもそも前回もちょっと出たのですけれども、そここのところを指定管理や運営を委託するっていうふうになると、全くそここのところに関しては、こういった議論が不毛になる可能性もあるのかなというところも踏まえて、どこまでの範囲のサウンディングをするのかとかですね、そういったところを明確にさせていただいた方が進めやすいのかという気がします。サウンディングの内容は私も存じているのですが、どここの範囲までそれを公に募集するのかという点です。

委員長 はい。中原課長、お願いします。

中原課長 サウンディング型市場調査をやるのは、松本市としては初めてです。指定管理者制度の導入に向けて、どの範囲を指定管理で出していくのか、管理運営、施設の管理の部分についてどのような手法があるのかを今検討しているわけですが、対話を通じて、いろいろご意見をお伺いしてみたいと思っていますところです。博物館事業だとか、展示製作だとかそのようなことについては、現在直営で検討しておりまして、それ以外の部分について、いろいろ対話を通じて確認し、ご意見をいただきたいというふうに思っているところです。

E 委員 わかりました。スタートするにあたって大事な部分だと思います。流動的でわからない部分もあつてのサウンディングなのかなっていう気はしているのですが、とりあえずは博物館の管理運営部分に関して、指定管理導入を検討しているところと、今私たちがここで議論している 1 階の部分に関するところに関しては、分けて考えるっていう、そんなニュアンスでとらえて進めてよろしいってことですかね。

委員長 はい、中原さんお願いします。

中原課長 はい。E 委員が言われた通り、ここでいただいたご意見を実現するためには、指定管理者制度を導入するとしても、どのような形でその実現に向けていけるのか、そういうことについては、それを踏まえて考えていきたいと思っています。

委員長 はい。よろしいでしょうか。この棲み分けっていうところで、やはりせっかくこの市民会議というものをわざわざ設けたわけですので、ここでの議論を踏まえた上でのサウンディング調査、或いは、募集というところに繋げていただければというふうに思います。指定管理の話は次にまた出て参りますので、それ以外の点で、ご意見ある方、挙手をお願いします。A 委員お願いします。

A 委員 今日ここまで伺った点、非常にそれぞれ理解できる点があつてありがたかったです。それで、小口さんからだったでしょうか、実際その運営にあたって人の重要性という話題が出たことが非常に印象深いところでありました。それについては、今まさにご

議論があった指定管理のあり方等とも関わって、どのような形で運営管理されるかで雇用の仕方も、変わるかなという気がしております。それとの関連なのですけれども、短期的には優れたコーディネーターを入れるといった話だと思うのですけれども、中長期的にはやはり人材の育成が結構重要になるだろうと。そうすると、1階でのプログラムについても、かなり教育に向き合ったプログラムデザインをする必要があるのではないかと。そういう議論が、ここまでのご発表の中ではなかったもので、申し上げたいと思うのです。例えば高校の探求学習。大学の博物館実習等々。博物館を知ることに関心を持っている学生が、実際1階で学ぶというようなことも考えていきたい。例えば信大と松大の合同ゼミなども街中だからこそできるのではないかと。未来の人材をうみだすための博物館として1階が機能すべきだろうなと思いました。以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。人材育成の場として活用していただきたいということです。1回目の会議の中でも、同様のご意見をいただいていたことを思い出しました。皆さんのお手元にあります、第1回市民会議での主な意見というところの中にも、学校で勉強する歴史にも地産地消があってよいというご意見があって、小学校、中学校で勉強した学生が、高校生、大学生になって、博物館で小学生に教えられるような主体性を作る仕掛けも大事だということをご意見の中からもいただいておりました。今のA委員のご意見も併せて、人材育成の拠点という視点はとても重要なことではないかなという様に存じます。他に、いかがでしょうか。他の委員さん、挙手にてお願いしたいと思います。はい、B委員さん、お願いします。

B委員 博物館友の会の活動をしています。新博物館への移転準備のため松本市立博物館が休館になったことから、新しい博物館ができるまでに足腰を強くしたいということで、昨年企業会員の募集に歩いています。松本を代表するような企業さんを何社か訪問させていただいたのですが、その中で参考になるかどうかわかりませんが、意見があったので申し上げたいと思います。松本市外から社員募集している企業の研修に博物館が使えるかというお話をいただきました。どういうことかということ、市外からおいでになって松本で就職して住まれるのですけれども、実際その松本の観光だとか歴史文化っていうのはわからない。それに対して、学芸員さんから講義をしていただく、場合によっては博物館の資料を見ながら研修することができないか。というお話がございまして、ぜひご利用いただきたいというお話をしました。ある病院さんですが、特に若い医師や看護師を募集するときに、一つの切り口になるかなということで会員にもなっていただきました。切り口を変えると、結構そういう使い方っていうのはあるのかなというふうに思っています。特に新しい1階に大きい講堂もできることで、そういうことをうまく使いながら、新人の研修だけじゃなくて、先ほど、各全国の博物館、美術館の中にもありましたけど、やっぱり上手くパートナーみたいな形で使えるようなことができればいいのではないかなと思ひましてご意見として申し上げました。

委員長 はい、ありがとうございます。企業との連携ですよね。非常に重要な視点かなと思います。企業研修を受けるということも一つの活用する方法でもあると存じます。この

意見についてはいかがでしょうか。事務局からご意見ございますか。はい。お願いします。

木下館長 ありがとうございます。私ども、当然の活動でやらなきゃいけないこととと思っていますけれども、企業を廻る中でそういうご意見をいただいちゃうとは、まだまだ活動PRが足りないなっていうことを反省するところでございます。企業の研修もそうですけれども、私、たまたま、役所の新規採用職員の研修で「松本の歴史」を毎年お話させてもらっていますが、それを役所の大会議室という何もないところでいつも話をしている。新しい博物館ができたら、まず、市の新規採用職員の研修を博物館でやらなければと感じました。以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。そういった意味でも、人をつなぐための場を提供するというような使い方をさせていただければというふうに思います。他に。はい。G委員お願いします。

G委員 前は欠席してしまい失礼いたしました。よろしく願いいたします。従来のこういった市の文化的な行事では、やはり小学校、中学校へチラシがあり、催しの案内があり、動員って言い方は失礼かもしれませんが、そういう直接的な働きかけがありました。ただ、現場にいて思うのですけども、小学生、中学生が自分でそこへ行って動こうってところの足、それだけの行動力は、やはり現実この辺の学区のお子さん以外はあります。親御さんが動かないと駄目だということを思っています。前回のこの議論の記録を見ていて、高校生、或いはその少し上の若い世代の方に動くような、そういった刺激のある内容が多く盛り込まれていていいと思いました。私が一番思うのは、やはり地域の高校生や専門学校や大学生のような行動力のある皆さんが目を止めて博物館に足を運ぶってことが、日常の中の、そういう交流の場の一番わかりやすいところかなってことを思います。そののところがまず大事にして、例えば、そういった意味でのアートとビジネスのドッキングとかデジタルコンテンツってというのが有効なかなってことを思いました。従来からの少しステップアップというか脱却という意味で、小中学生ってところから違った視点で検討していただくのがいいかなって思います。以上です。

委員長 G委員さんありがとうございます。私からも一つよろしいでしょうか。パブリックコメントの中に「子どもが自由に入れるような場所にして欲しい」という意見が市民の中からも出ています。ここでの子どもってというのは、高校生以上というよりは、もっと若い小中、それから幼稚園児というような括りかと思うのですけれども、やはりお子さんたちが、身近に感じてもらえるような仕掛けというのも一つ必要かなというふうに思っております、その辺りG委員さんはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

G委員 里山辺にあるような教育文化センターは、まさにそういうものの一つかなと思います。2階にある科学施設ですけども、子どもが自由にいじって楽しめて発見があるものなのです。しかし、場所もですが、やはり先ほども言いました子どもだけで寄れる場所にはありませんし、たとえ素晴らしい立地条件にあっても、子どもだけでは、やはりそこへ来るってこと、小中学生では、普段学校でも禁止をしていますし、なか

なかできないかなって思います。そうすると、子どもだけで自由に楽しめるって部分をつきつめても効果がないのかなってことを思います。むしろ、子どもだけで楽しめ、学習に大変有意義なのは学校で連れて来たときです。そこまで盛り込むとまた違った雰囲気、かなり違った雰囲気になってしまうかなってことを思っていて、どちらかを選べという、私個人の感覚ですと、やはり学校で連れてくるときに耐えるものというよりは、親子で、親御さんがついてのお子さん、或いは高校生とか、もっと数年近い世代の方たちが来て、満足できる内容にして、学習の場をあまり全面に出さなくてもいいのではないかなと思います。

委員長 はい、ありがとうございました。学校現場にいらっしゃる先生の切実なご意見かなあというふうに思います。お子さんと一緒に親御さんが連れて来てくれるような場づくりということも重要ではないかというご意見だったと思います。はい。今のご意見もしくは他の視点で何かご意見ありますでしょうか。はい、E委員さんお願いします。

E委員 ありがとうございます。先ほどB委員さんがおっしゃったことに、私もいたく同感するところでありまして、私たちが今、松本山雅の運営をしていく中で、選手たちのモチベーションを上げるためには、やっぱり松本をいかに選手たちが自分の町としてとらえるか、自分のホームチームだっという意識を持ってもらうかってことがすごく大事だっということを10年経って非常に痛切に感じています。その時に山雅としても本当に山雅メソッドだとか、山雅のバイブルみたいなものを、来た選手には必ずそれを講義してみたいとも考えていますけど、まさしくそれと同じだと思います。いつも館長さん押しになって申し訳ないですが、館長さんがこないだ熱弁を振るったようなことってというのは、非常に斬新であり、またその勉強になるような話であって、それをもうプログラムとしてきちんともう売り込むっていうかですね、それを商品化していくってというのは、すごく大事な要素なのかなと。結局どういう強いコンテンツがあるかっていうのがすごく大事なかって改めて感じました。ビジネスとアートをドッキングさせていくっていう観点でいうと、スポンサーを集めるっていうやり方や、また違う視点からすると、スポンサーがつくようなコンテンツ、例えば映像を作るとかですね、スポンサーがついたものをそこで発表するとか。そういったようなこともあるのかなっていうふうに思いながら、「じゃらん」とか「トリップアドバイザー」などいろいろ全国の博物館の人気ランキングがあるのですが、何を見ても結局は何を提供するかっていうところなんです。行き着くところは。福井の恐竜のようにコンテンツが明確なところは別としても、それ以外のところはもうネタの勝負になっている感があるので、そこに関してはいろんなアイデアをこの場で皆さんと出し合いながら、本当にこの町に必要なものって何かっていうのを吟味してくってということが、大事かなっていうのを改めて感じました。

委員長 はい。ありがとうございます。コンテンツの中身について、企業のそういった企業視点でのコンテンツへのご意見ですよね。そんなことも、こちら側で作ったものをお見せするだけではなくて、市民もしくは企業も、そのコンテンツ作りの中に参画していただいて魅力的なものを作っていくということになるかと思うのですが、前回、博物館が持っている資料について、非常に面白いプレゼンをしていただいたわけです。

けれども。それにプラスアルファとして、未来に向けて、何かコンテンツを増強させていくような取り組みがアイデアとして求められているのではないかなということでしょうか。

E 委員 アイデアっていうのもありますが、一例でいうと、山雅の今のスポンサーはアディダスですけど、アディダスは登山だとかそういったアウトドアやなんかに入力していく一環として、中国の山を映像化して、その映像を VR コンテンツとしてキャンペーンやファイルダウンロードとして提供しています。可能性として、博物館にそういった山岳の VR であったり、疑似体験であったりっていう映像コンテンツをアディダスに作ってもらって、アディダス提供ですっていうのをやれば、これ立派な企業サポートだと思うのです。映像を作るにもお金がかかりますから。アディダスからすると、そこで自分のビジネスにフィードバックされていく。その図式だけ書ければ、もしかしたら、松本のポテンシャルからすれば、ここは山岳リゾートという場所なのだったことを言えば、プレゼンとして「なくはないかな」という気もちょっとしています。そういったことも可能性の一例として、発想できるのかなということです。

委員長 はい。大変わかりやすいご説明ありがとうございました。企業がこのようなコンテンツの中に入り込んでいくっていうことについては、どの程度まで市の公共施設、使われるものなのかっていうそのあたりはどうでしょうか。事務局のご意見は何かございますか。今の段階ではアイデア出しということですので、非常に面白いアイデアだなと私個人としては思いますけれども、市の縛りとして、あまり企業名が出てそこに依存するようなことだとまずいというような、何か視点があれば仰っていただければと思います。はい。館長さんお願いします。

木下館長 まず双方向にメリットがあるっていうことであれば大丈夫かと。大丈夫という言い方ちょっとおかしいですけどいいのかなというふうに思います。その部分が、しっかり市民の皆さんですとか、他の企業の皆さんに理解がいただけるっていう、そういうことで、進めていければいいのかなと思いますし、もう一つは、やはり機会ですかね。チャンスがやっぱり均等に行かなきゃいけない、どういうふうにそのことを周知していくのかっていう入口の部分が、きっと重要になってくのではないのかなというふうに思っています。例えば、ホテル旅館組合さんと私どもが提携をして、ホテルに入ったお客さんが博物館に来ると割引というようなことをしていました。それって、どっちがメリットになっているのかわからないし、そういうあやふやなものっていうのはあまり効果を生まない、ということは何となく経験で知っています。例えば、ホテルさんときっちり提携していくようなことを考えるなら、ホテルに入ったときにホテルの案内とか、テレビとか見ますよね。そこに松本市立博物館で「今、何をしています。」みたいなことをきっちり出してもらおう。だから、お客さんに割引ではなくて、ホテルさんに何かお返しをするというような、もっとわかりやすいお互いにメリットがあるっていうことで、協力ができればいいのかなっていうところで、それが、著しく両者のメリットの均衡を破らない限りは、市の方が「ちょっと有利だね」という程度であれば、そこは許されるのかなというふうに思うので、隠さずにそういうことをきちんと外にどんどん情報を出しながらやっていけばできるのではないかなと思うし、

そういうふうにならなければいけないのかなというふうに思います。

委員長 はい、ありがとうございました。双方向のメリットっていうことでなかなか難しいですね。ただ情報開示という点におきましては、広く募るという点で誰でも手が挙げられるような仕組みっていうのは必要かなというふうに思います。はい、いかがでしょうか。どうぞ、D 委員さんお願いします。

D 委員 今回から参加で申し訳ありませんが、復習のお時間ありがとうございました。それで、前回お話が出ていたら申し訳ないのですが、まずは教育として使うという視点もあり、いろんな側面があるってことがわかってきたのですが、私は現役の子育て中高生の親であることと、会社の経営者であったりする視点からお話をします。もしアイデア出しをするとすれば、子ども向けのところをどうするかというご意見もあったので、じゃあどうするかということで、他県の事例として旧鳥取県立図書館について紹介します。この図書館が古いから壊そうとなったときに市民の方が動いて、そこを、おもちゃ博と合わせて、おもちゃ館で再生しようということで今、「財団法人鳥取わらべ館」の名前で財団が運営をされています。県と市がお金を出して、あとの収入は入館料です。県と市が支えているところで、私は2年間鳥取市に住んでいたことがありまして、博物館に子連れで通うっていう生活をしていました。地元の親が通うにはどうという理由があるかという、当時は親が500円で子どもは何人でも無料で一日遊べるというところ。鳥取県は3日あったら2日雨みたいなのところなので、500円頑張って払えば、うちは子どもが3人いるので3人遊ばせられる。施設の概要は、建物の1階は観光客の方がドーンと来る場所で、二宮金次郎と古い校舎、昭和の小学校が再現されている。2階は、市民が主に使うところで、いろんなおもちゃが置いてあるおもちゃの博物館みたいなのところ。おもちゃで遊べるようになっていて、郷土のおもちゃや海外のおもちゃがあり、ぜんまい仕掛けなど仕組みを考えて遊ぶアナログのものが多く置かれていました。3階は観光客の方がうわあてなところですが、その展示が季節展示だったり、いろんな常設展示以外に日本の古い土鈴の展示があったりして、博物館と同じような展示をしていました。不思議だったのは観光客も来るし、地元市民も来るっていうところをととても興味深く感じていました。そういう親が来るものっていうのは、子どもが「お母ちゃん行きたいわ」という、行くと工作相手をしてくれるおじいちゃんがいる。コンテンツといっても、機械がしゃべってくれるコンテンツと、人間がかまってくれるコンテンツとがあると思います。人間がかまってくれるコンテンツの担い手が職員の場合もあれば、ボランティアさんの場合もある。コンテンツ運営をしていく中で問題となるのが、日々まわしてくれる人材をどうするかってことだと思います。一番メリットがあるのは市民学芸員さんの活躍の場をどこまで広げられるかということです。自分の得意な分野を解説したい、誰かに伝えたいという市民は多くいると思いますし、松本に住む外国人の方が活躍する機会も考えられます。松本在住の外国人の方が母国語で松本を説明することにワクワクしますし、アプリで外国語対応するよりもずっと面白いのではないかと思います。インバウンド需要や子連れのお客様対応は市民の皆さんの力を借りることでやっていける。市民学芸員の組織をしっかりしていくことが必要だと思います。

話を変えますが、松本の宿泊業では一泊しない、一泊でどっかにいなくなっちゃうというところが課題です。松本のインバウンドを厚くする会をずっとやらせていただいている中では、「もう一泊してよ」ということをどれだけ仕掛けられるかっていうところを博物館さんと一緒にやれたらいいなと思います。「一泊したら飛騨高山に行きたい」とか、「金沢行の電車に間に合わせるためには松本城まで歩いて何分か」とか駅で聞かれたりする。いやいや、もう1日ここにいて遊ぶ。次は、里山行く。次、山行く。とかいう街巡りのハブになっていたら嬉しいなとそんなふうに思いました。思いつきですみません。たくさん言いましたが拾っていただけたらと思います。

委員長 はい、ありがとうございます。大変素晴らしいご意見だと思います。外から来た人が気づく意見ですよ。図書館の例を挙げつつ、子ども向けのコンテンツ、やはり充実させていかなければいけないのかなあというふうにも思いましたし、市民学芸員を養成する講座をさらに厚くして、地元の人も入り浸る、子どもも入り浸る、外国人も入り浸るみたいな、そんなような場所づくりになったらいいかなあということだったかと思います。ぜひ、今のD委員さんのご意見を、咀嚼していただいて、何らかの形に向けていけたらいいなと思います。人材育成、非常に時間と手間もかかりますけれども、やりたい人はいっぱいいると思うのですよね。松本LOVEの人たくさんいますので、そういった方々を、組織をまとめるコーディネーター役というのが、やはり先ほどの、最初にA委員もおっしゃっていたコーディネーターの役割は非常に重要なのだというご意見だったかと思います。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうかまだお話されてないF委員さん。

F委員 ありがとうございます。そうですね。前回申し上げたように、やっぱり松本市の「あの場所の博物館」なので、いくつかの側面があって、観光の側面、要するに観光客を視点にいろいろ考えるってことと、あとは高校生と専門学校生と大学生って、もうここは絶対だと僕は前回申し上げた通り思っています。これだけの施設で、彼らを絡めないっていう手はない。なので、今求められている教育っていうのが多分いろいろ考えられていると思うのです。国語算数理科社会一辺倒でない、高校になったら全部がどう絡み合っていくかっていうところになってくると思うのですけど。(例えば、)博物館からちょっと外へ出ると女鳥羽川があります。最近若い仲間と掃除を一緒にやっていて、女鳥羽川に何がいるかっていうのを初めて知ったのです。だからそういった部分も、本当に身近なことを学生絡めて、博物館でこれをきちんと発表させる。博物館のある程度何て言うのですか、威厳とかですね、そういうのも大事ですけど、ちゃんと成功させるっていう、そのガイドが必要だと思うのですけど、本当にそういう身近なことで、生物のことも学べるし、地域のことも学べるし、自然のことも学べるし、歴史だったら地域史的な側面もあるから歴史に興味のある学生は探求できるわけですよ。教科書からだけじゃなくって、それこそ博物館行けば松本市の歴史がすごくわかる。そう言った、いろいろとコーディネートして、今必要なことって、そこで体現とか再現できるのではないのかなっていうふうに思います。そんなことを考えていましたけど、観光面じゃ本当に人がいっぱい来てくれるのが本当に助かることなので、あそこに「なかなかないよね、ああいう博物館」っていうものが存在してくれると縄

手通りは助かります。それだけで。

委員長 はい。ありがとうございます。博物館を拠点にしてどんどん人を外に出していくっていうね、そういう視点大事ですよ。C 委員いかがですか。お願いします。

C 委員 皆さんいろいろ素晴らしいアイデアを出されて、若干気後れの感もありますけれども、私は大名町で商売をやっている商業者の 1 人として参加をさせていただいているつもりでいます。そういう中で今回、「博物館の 1 階ににぎわいを」という、市長の呼びかけの中でこの市民会議にあるのだと思います。同時に、例えばちょっと拾ってみたところでは E 委員や D 委員なんかもかんでいらっしゃる 2030 総合計画とかですね、或いは松本城三の丸地区整備基本方針とか、一応資料持ってきましたが、松本市交通政策実行計画っていうようなものや、あと、このエリアは松本城のお城周辺地区のまちづくり推進協議会という住民の組織があります。例えば、まちづくり協定というものや、或いは先般ちょっとご案内いただいた市のマスタープランっていうようなもの。そういうものが横軸でもってそれぞれの部署が、それぞれにやっているのです。それがなかなかこのちょっと、くずほぐれつというか、かみ合わないところがあったりして、整合性が取れないような部分も感じるのです。だから、そういう中で、何を言わんとしているかと言いますと、今回は博物館についての話をしていると思うのですが、私の立場で言うならば、面として三の丸ということの中で、博物館がどういうふうにあるかというような視点。やっぱり博物館に人を集めるということではなくて、先ほど F 委員がおっしゃったような回遊性だとか、そういうことの中のハブ。小口さんがおっしゃったハブというようなことを重点に考えていただけて、やっぱり周辺がにぎわう、或いはにぎわうというだけではなくても、その文化性が高まるそういうようなことに寄与できればいいなあというふうには思います。なかなか難しいかもしれないけども、私はもう本当にそういうことを強く思います。

今、すぐ脇で来月説明会があると言っているのですが、内環状線っていう計画があります。環状にならないのに環状線というのです。なぜか不思議と。例えば、先ほど小口さんから土手小路の道路整備のことを言及していましたが、土手小路と例えば内環状北線と、或いは大名町西堀っていうのが、それぞれ何かちぐはぐな町になってしまう。「ちんどんや」の町になっちゃうのではないかと指摘を街の人からいただいています。だからやっぱり一体的に回遊できるような、なんかそういう、面としてとらえられるような形の視点で議論していただければいいなあというふうに思います。

委員長 はい、ありがとうございました。博物館は点ではなくて面の中の一つであるという、面に人が繰り出していくような方向性も示せると良いかなというご意見だったかと思います。いかがでしょうか。はい、D 委員お願いします。

D 委員 C 委員さんがいいこと言ってくれたので、忘れないうちに言っておきたいと思います。回遊性ですね。F 委員さんも言ってくれたのですが、回遊していただくように作るにはどうしたらいいのだと思って。最初の図面を見たときに、ドリンクコーナーがしょぼいなと思って、どう強化するかと思ったのですよ。いやいや違うと、ここで全部囲ってしまっただけではいけないのではないってことですよ。近所でお茶をした

のを持ち寄って軒下で飲めるとか、ご近所のお店から持ち寄って、何かそんなことですよね。1ヶ所が1人勝ちは困るのですよ、商業者としては。ですから連なって動けるようにしつつ、駐車場を確保してもらおう。そのちっちゃい商業者さんは駐車場の件も大変なので、あそこに停めて来てくれると、近所で全部買い回れるとか、お茶できるとか、面で発展することの知恵出しも必要ってことですな。

委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。ちょっと時間が押して参りましたが、A委員さんどうでしょう。今までの議論をお聞きになって、何かご意見がございますか。

A委員 いや、もっともなお話がどんどん出ていると思っています。今皆さんのお話を伺っていても市民目線の重要さがかみしめられるなっています。今回パブリックコメントをご提供いただきましたが、私はさかのぼって構想策定委員会の議論、それから平成21年度基本計画の議論を見てみたのですけれども。やはりそこでも「市民を対象として結果として観光客の要望にこたえる」とか、或いは「交流型」とか、「コンシェルジュのような人材の配置」とか、或いは「学習にとどまらないキャリア支援型の重要性」とか、いいアイデアが出てくるのです。そういうことをあらためて踏まえながら議論できると素晴らしいと思いました。以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。これまで他の委員会で話し合われたことも、何か情報として提示できるといいですよ。構想委員会の時に出てきた内容とかですね。はい、ありがとうございます。ではですね大変恐縮ですが、その次の議題の管理運営についてです。今度はサウンディングの話になりますので、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

エ 管理運営について（事務局による資料3の説明）

オ 意見交換

委員長 ご説明ありがとうございました。ただいま、詳しく説明していただきました指定管理者制度導入につきましていかがでしょうか。ご意見ございますか。E委員さん、いかがですか。

E委員 今のご説明の中で、おそらくサウンディング型市場調査の実施がほぼ松本では初めてになるのですかね。サウンディングってあんまり記憶にないのですよね。

委員長 はい。事務局お願いします。

中原課長 サウンディング型市場調査というのは、私の知る限りでは初めてかなというふうに思っています。近隣では、塩尻市の体育館だとか、それから安曇野市の体育館でサウンディングが行われておりまして、それもいろいろ参考にさせていただきながら、今回不安な部分もあるのですけども、進めていきたいなと思っているところです。

E委員 サウンディング型市場調査を実施した後に、具体的に何をこう事業として展開するのかとか、その募集をかけるっていうことは、それは別段階の別次元の話になるっていうことは一応共有しといたほうがいいかなっていう気がします。サウンディングで決まったからって、それが事業として決まったってことにはならないってことでよろしいわけですよ。

委員長 はい、事務局お願いします。

中原課長 初めてやるということもあるのですが、あくまでも今回は調査ですので、参考としていろいろご意見を聞かせていただきたいなというふうに考えております。

E 委員 わかりました。ある程度、流れがわかりましたので、あとは思い切って好きなことを言わせてもらえればと思います。よろしくお願いします。

委員長 サウンディング型市場調査を導入するというふうに決めた背景といいますが、それはどう、どういう事情があったのでしょうか。

中原課長 正直言いますと、こういう大規模な施設は松本市では久しぶりということの中で、直近では塩尻市さんが体育館について指定管理を入れるということの中でサウンディング型市場調査を2回ほど実施し、安曇野市さんもそのあと続けて実施しています。これを受けて、博物館という特殊な施設でございますので、今まで指定管理者制度導入に向けて検討はしてきましたけれども、果たして本当に受け手があるのかどうかというのは非常に不安な部分がございます、これは事前にサウンディングでの対話を通じて、ご意見をお伺いするってことは非常に大事じゃないかなということで、市としても多分初めてかと思えますけども、実施してみようということになりました。

委員長 はい、ありがとうございます。どうでしょう。ご意見ありますか。E 委員、お願いします。

E 委員 これはあくまでもちょっと意見として聞いていただければと思いますが、広く意見を聞くというのは大事なことだとももちろん思います。サウンディングっていう切り口ではなくても、この会議のように市民の意見を集約するとか、そういう流れの中で意見集約っていうのも一つ目的としてあると思うのです。ただその意見集約の部分に関してはある程度、事足りているという気がしています。おそらく一番はその本音の部分で、果たしてこれを受けてくれる事業者がいるかどうかというところに不安があるってことだと思います。これは懸念ですが、私もいろいろ流れを見ていく中で、非常にちょっと危険な部分も、僕ははらんでいるなっていうのは、意見として持っています。それは、結局その魅力がなくても、提案する内容が特段素晴らしくなくても、持っているポテンシャルや事業体としての大きさみたいなところが、前面に出てきちゃう。本当はここに取って欲しくないみたいなのがとりかねない状況にあるのです。実際に、それよりはさっきの話じゃないですけど、この市民が参加できるような、1階の部分でいうとカフェなんて週が変わりで変わってもいいぐらいのもんじゃないですか変な話。という意見も、もしかしたら出てくるとして、もう決まったところがガチッと入っちゃうと、非常に身動きができない組織体。そうすると、その市民が本当に求めていたものがそこに実現できるかっていうと、非常に実は難しいところなのです。他の事例でも結構そういうのを感じていて、ここ取っちゃったのかな、みたいだね。どうとは言いませんが、ここやったらこれもほぼ、これしかねえだろうみたいだね。だからそういうのと、果たしてこれはねっていうところもあるので、参考にしていただければ。多分話の中でいろいろ出てくると思いますが。

委員長 はい、ありがとうございました。事務局、いかがですか。よろしいですか。

中原課長 今、E 委員からいただいたご意見をしっかり踏まえて、これから調査していきたいというふうに思っております。

委員長 はい。ありがとうございます。他の委員さんで。はい。D 委員さんお願いします。

D 委員 そうですね。これ今、思うに施設管理ができる会社が、広報企画マーケティングに長けている会社は見当たらないっていうか、小粒の零細企業の経営者が何を言うんだみたいな感じなのですが、松本にそれ両方できる人がいたかなって思って。なんでもコンソーシアムみたいになっちゃうのであれば、それはそれで強みだけ生かして、アルプス公園みたいに松本土建さん、アイネットさん、あとルピナさんと、コンフォールさんとか、清掃が得意とか、電気が得意とか、なんかバラバラになっちゃうかな。そうなるとうちでも全部ができるところなんか見当たらずで、皆さんが選ぶのが苦勞されそうな気がするので、カフェに関してはチャレンジショップで商工会議所さんがまわしていただく。半年やるのだけど、半年後違うカフェが入って、いずれカフェをやる経営者さんの練習場とかで、どんどん入れ替わるとか、なんでしょね。どのように市がリスクヘッジをしながら回せるかっていうことを考えると、枠組みだけ作っておいてまわしていただきたいというのが安全な気がします。ただマーケティングができる会社が少なく苦勞するので、これはもう事業担当の方が外注するとか、その方が安全にマーケティングできる。本当にマーケティングできる人って日本に数少ないので、地元の企業だとあやしいなと思うのです。なので、ちょっと、これ市でできないから投げたっていうよりは、むしろ抱えておいてちゃんと外注して、あいみつ取るとかの方がむしろいいような気がします。無難な施設管理とかは割とできる会社さんあると思うのです。相澤病院の管理をしているところとか。マーケティングを得意分野じゃないところを任せると危ないので、枠組みを作って、これは外注、これは指定管理の枠に入れるとか、少し細分化して、弾力的にしておいた方がいいのかもしれないというのをちょっと思いました。

委員長 はい。事務局いかがでしょうか。コンソーシアム型の指定管理のご意見ですが。

中原課長 今、ご意見として、いろいろお伺いさせていただいて、今後考えていきたいというふうに思っています。

委員長 はい。ありがとうございますいろんな意見に出していただくことが、重要なというふうに思います。はい。A 委員さん、お願いします。

A 委員 はい。今話題に出ている点ですが、直営と指定管理者の並存、二階建て的な形で、管理運用を考えていくとすると、即座に思い出すのは松本市美術館です。松本市美術館の場合は、芸術文化振興財団が非公募で入っているということで、よろしいでしょうか。そうした松本市美術館のあり方については相当参考にされているのかということですね、これについて伺ってみたいと思います。言い方を変えるのならば、先ほどの面をとらえるという、委員の方からのお話とも重なるのですけれども、芸術文化振興財団のあり方といったところにも繋がる議論だと思っております。この会議が扱う範囲を超えた話題ではありますけれども、ひとまず市美についてどのような勉強をされているのか、そこだけ伺えますでしょうか。以上です。

委員長 はい。ありがとうございます。では事務局お願いします。

中原課長 はい。A 委員のお話にもありました通り、美術館の指定管理は2 階建てで、財団が行っているわけですが、これについても十分いろいろ研究させていただいています。

委員長 はい。A委員よろしいですか。美術館の指定管理制度を参考にしているということですが、

A委員 はい。公募・非公募というところが、一つ議論の核だと思いますけれども、まずはサウンディング型市場調査等々進めながら、ということですね。ありがとうございます。私はここでちょっと失礼します。

委員長 A委員どうもありがとうございました。お忙しいところ恐れ入ります。ありがとうございました。はい、ではB委員さんお願いします。

B委員 今何人の方からもお話出ているように、この指定管理者のところに、三つのまるつきでもって分かれています。上の施設管理という形のもでしたら、先ほどからお話あるようにかなりの業者さん対応できる部分があると思うのですよ。ただこの広報企画、自主事業という形になった時に本当にどれだけのことができるのかなど。また逆に、今これ組織図を見ると、直営の部分と指定管理者の部分と分かれていますよね。ここの調整ってというのは誰がどういう形でするかって問題も出てくると思うのですね。ですから、例えば、指定管理者の方で、こういう企画をしたいと思えば、お金はこれだけかかります、人もこれだけ要ります。でもそれが本当に市との打ち合わせになってきた時に、どちらがその優先権っていうとおかしいですけども、それ如何によっても全く変わってきちゃうと思うのですよね。その判断ができるコーディネーターみたいな方がいないと、なかなか難しいのかなというふうに思っています。ですから、本来からすれば、企画力、広報力、それから自主営業、いろんなことができる力を持った方が本当に運営して下さって、それこそ利益上げて下さいと。博物館の施設をお貸ししますので、ということができれば、これは民間の企業としてはおいしいお話だと思うのですが、実際、そこら辺は難しいということと、それと、この直営という部分とその兼ね合いを、はっきり打ち出さないと、受ける所ないと思います。正直言って、ある意味では学芸員さんは、市の公務員で、給料もらっています。指定管理者の方たちが自分で稼いで給料払ってください。ここら辺がどれだけ通用するのかってというのは、やっぱり相当難しいところではないかと思うのですね。ですから逆に、そういう土台がきちっとできた上で、指定管理者を募集するのであれば、私は賛成ですけども、現実なかなか、見ているとそれは相当難しいことじゃないのかなというふうに思っていますので、ちょっとそこら辺ご意見として申し上げたいと思います。

委員長 はい、ありがとうございました。ご意見として承っておきたいというふうに思います。他にこの件につきまして、何かご意見のある方いらっしゃいますか。もうそろそろちょっと締めに入って参りますけれども、よろしいですか。はい。そうしましたら、ご説明一応終わらせていただいて、続きまして議題のその他についてなんですけれども、私から委員の皆様方へお願いがございます。横長のこの別紙。基幹博物館1階活用市民会議、第3回資料というのがございます。大変僭越ではございますが、皆様次回に向けて宿題を出ささせていただいてですね、今日は意見が出なかった、でもこんな思いもあるっていうのをここに書きいただいて事務局の方にお出しただければというふうに思っております。1階のパブリックスペースの具体的な活用案、ショップ・ドリンク、それから、管理運営に指定管理制度を導入することについて、

今指定管理制度について皆様のご意見いただいておりますけれども、さらに加えて、具体的な皆様の知恵を拝借ということで、こんなことはできないだろうかというようなですね、飛び抜けたアイデアでもいいと思うのです。こんなことできかないよって思わずに、こんな可能性もあるのではなからうかということを出していただきまして、市の方に提出をお願いしたいと思っております。これをもとに、次回の第3回目の活用会議の協議を進めさせていただきたいと思っておりますので、是非とも、皆様のお知恵をいただきたく、お願いとさせていただきます。では、私からは以上です。事務局に進行をお返しいたします。

山村補佐 益山委員長、そして各委員の皆様、慎重な審議をありがとうございました。続きまして、次第の4番その他ですが、何かありますでしょうか。はい、お願いします。

中原課長 ありがとうございました。先ほど委員長からの宿題でございますけれども、後日メールをワード形式でお送りさせていただきますので、データ提出で構いませんので、8月20日までということになりますけれども、よろしくをお願いします。なお、ペーパーでいただいても構いません。これはどちらでも構いませんが、このデータをお送りしますのでよろしく願いをいたします。それから第3回の市民会議につきましては、お盆明けの8月23日から9月3日までの間で、委員長とご相談をさせていただきながら、日程調整をさせていただきたいと考えています。後日メール等で日程確認をさせていただきますので、どうぞよろしく願いをいたします。以上です。

山村補佐 その他、何かありますでしょうか。なければ、以上をもちまして、第2回松本市基幹博物館1階活用市民会議を終了します。本日はありがとうございました。